

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

両城中学校区 校番 14 学校名 呉市立両城中学校

a 学校教育目標	① 「心豊かに、自立する」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 志とともに「両城中学校で学んでよかった。両城中で育ててよかった。」と自分の言葉で語れる生徒を育成する教育に貢献する。 <ビジョン>(将来の学校像) 「生徒、地域住民、保護者が将来にわたって誇りに思える学校」を目指す。
----------	------------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本中学校区では、二川教育プランの取組を充実させ、「主体的に学び、主体的に関わり、主体的に高まる生徒の育成」を目指している。教職員が、協働的に教科指導、生徒指導に取り組み、概ね落ち着いた環境の中で学習を進めることができ、基礎学力については概ね定着している生徒が多い。主体的な学びの推進による学力のさらなる定着と向上、また自尊感情の向上が課題である。 重点として、前者については今一度原点に戻って「教えて考えさせる授業」を推進し、後者については、生徒会を中心とした生徒主体の学校づくりに取り組む。また、生活リズムを確立させる取組をPTAと協力して行い、規則正しく生活し、活力のある生徒の育成を推進する。さらに、防災教育の深化により、生徒の「自分の命は自分で守る力」を向上させる。
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性
-------------	--------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから①・②・③年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力の向上	① 学力の向上	基礎・基本の徹底	・家庭学習の指導 (目標時間:1年80分～、2年100分～、3年120分～) ・キュビナの活用	学力調査における通過率30%未満の生徒の割合	5%						
				家庭学習を目標時間以上する生徒の割合	75%						
** 豊かな心の育成	① 自尊感情の向上	自他を大切に認め合う生徒の育成【いじめの防止】	・「教えて考えさせる授業」の導入による「考える授業」づくりの推進	質問紙調査「授業で課題に対し、主体的に考えて表現する活動に取り組んでいる」の肯定的評価の割合	90%						
				学力調査等の結果において全国平均を3.0ポイント以上上回る生徒の割合	60%						
* 健やかな体の育成	① 生きる力の向上	主体的に行動できる生徒の育成	・生活や体験の意欲付けや振り返りの充実 ・積極的な生徒指導 ・教育相談の充実	質問紙調査「学校に行くのは楽しいと思う生徒の割合」	90%						
				質問紙調査「自分にはよいところがある」の肯定的評価の割合	80%						
* 健やかな体の育成	① 生きる力の向上	体力の向上	・生活改善指導 ・保護者への情報発信・連携(携帯電話等の使用ルール〔PTA宣言〕等)	質問紙調査「授業で課題に対し、主体的に考えて表現する活動に取り組んでいる」の肯定的評価の割合	90%						
				質問紙調査「運動やスポーツが好き」の肯定的評価の割合	90%						
				質問紙調査「時間の三点固定を意識して行動し、生活リズムを確立できている」の肯定的評価の割合	生徒80% 保護者65%						
* 健やかな体の育成	① 生きる力の向上	「自分の命は自分で守る」力の育成	・本校と呉市の2回の防災週間を中心とした防災に関する教科等横断的な取組 ・生徒主体の防災の取組	質問紙調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」の肯定的評価の割合	100%						
				質問紙調査「夢や目標に向けて努力している」の肯定的評価の割合	85%						
* 健やかな体の育成	① 生きる力の向上	生活リズムの確立	・生活改善指導 ・保護者への情報発信・連携(携帯電話等の使用ルール〔PTA宣言〕等)	質問紙調査(生徒・保護者)「PTA宣言を守っている」の肯定的評価	生徒70% 保護者65%						
				質問紙調査「いつも『自分の命は自分で守る』ことを意識して生活している」生徒の割合	95%						
				質問紙調査「自分の命は自分で守る」力の育成	95%						
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	生徒と向き合う時間の確保	・OJTによる業務の効率化とP-D-C-Aの確実な実施	・生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%						
		長時間勤務の削減	・週1回の一斉退校日の徹底 ・業務の精選と効率化	・時間外勤務が月45時間以内の教職員の割合	100%						

【k:評価】
 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60